

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

内分泌外科（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

外科の中で内分泌外科は、やや専門化した領域と言える。外科的技術の前にまず特殊な病態を理解しなければならない。対象臓器が特有のホルモンを産生し、種々の身体機能を維持しているからである。単に病変を手術で切除するだけでなく、切除量が術後のホルモン環境を左右することから、疾患病態、年齢、性、他臓器への影響を考慮した包括治療を習得することを目的とする。

2 プログラム管理運営体制

内分泌外科スタッフにより管理運営される。必要があれば東邦大学一般・消化器外科学講座スタッフの助言、指示を受ける。

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択研修での研修期間は4週以上である。
外来診療、検査、手術、病棟管理を臨床研修指導医とともに経験する。

3-2 一般目標（GIO）

3-3-1 行動目標（SBOs）

- 1) 内分泌疾患の病態を理解し、正しい診察を行うことができる。
- 2) 診断のための適切な検査を選択できる。
- 3) 外科適応を決定することができる。
- 4) 局所解剖を理解できる。
- 5) 手術法を選択できる。
- 6) 術後管理の要点を理解できる。

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 問診で内分泌疾患の可能性を疑うことができる。
- 2) 的確な診察ができ、記載できる。

- 3) 血液検査結果を評価できる。
- 4) レントゲン撮影所見を評価できる。
- 5) 超音波検査を行い、所見を評価できる。
- 6) 生検を実施できる。
- 7) 手術の助手ができる。
- 8) 臨床研修指導医の下で手術の執刀ができる。

3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 頸部腫脹・腫瘤
- 2) 嘔声
- 3) 嚥下障害
- 4) 心悸亢進
- 5) 手指振戦
- 6) 浮腫
- 7) テタニー(口囲、手足のシビレ、硬直)
- 8) リンパ節腫脹
- 9) 甲状腺中毒症
- 10) 甲状腺機能亢進症
- 11) 甲状腺機能低下症
- 12) 副甲状腺機能亢進症
- 13) 副甲状腺機能不全
- 14) 高 Ca 血症
- 15) 低 Ca 血症
- 16) MEN(多内分泌腫瘍症)
- 17) 甲状腺癌
- 18) Basedow(Graves)病
- 19) 橋本病(慢性甲状腺炎)
- 20) 腺腫様甲状腺腫
- 21) 濾胞腺腫

3-3-2-C 特定医療現場の経験

3-4-1 学習方略(LS)

- 1.回診: 手術、外来などで不可能な場合を除き原則として毎日午前9時より行う。
- 2.症例検討会: 毎週1回月曜回診前より行うほか、回診時に随時行う。

3.勉強会、抄読会： 毎週月曜に勉強会。入院症例に関連した勉強会を行う。2週に1回、抄読会を行う。抄読会は、臨床研修指導医から指示された欧文献を読み、発表する。文献は、自分で内分泌に関する興味あるものを選んで行ってもよい。

4.研修医症例発表： 毎月1回担当症例を発表する。

3-4-2 週間スケジュール

研修期間中の勤務時間は、原則として午前9時から午後5時。しかし、時間外に症例検討会、抄読会、勉強会などは、時間外に及ぶことがある当直は直接指導の医師とともに従事する。

3-5 評価 (EV)

内分泌疾患の病態の理解と外科的対応の把握(知識)、診察手技、態度、積極性、検査の評価および手技、手術の理解が、一般外科医として十分かどうかを基準として評価する。

プログラム修了時に指導責任者と直接臨床研修指導医とで、医師としての適性(態度、積極性)、診療研修実績(外来、検査、手術)、教育行事への出席状況を総合評価する。

3-6-1 指導体制

本プログラムの最高指導責任は、東邦大学一般・消化器外科内分泌外科の指導責任者にある。研修医は、直接臨床研修指導医の下で日常診療、手術に参加する。

3-6-2 臨床研修指導医

臨床研修指導医責任者 緒方 秀昭

臨床研修指導医 齊藤 芙美

3-6-3 協力施設